

## 平成20年12月の解説（週間天気予報）

### 【12月の天候状況】

上旬から下旬の前半は低気圧と高気圧が交互に日本付近を通過したため、天気は数日の周期で変わりました。このため冬型の気圧配置は一時的となり、低気圧や気圧の谷に向かって南から暖かい風が吹いたので北日本を中心に高温となりました。下旬後半は強い冬型の気圧配置になり、北日本から西日本にかけての日本海側や奄美と沖縄地方では曇りや雪または雨で、太平洋側では晴れの日が多くなりました。

月を通しての日照時間は、東日本の日本海側や奄美と沖縄地方では平年よりかなり少なくなりました。降水量は北日本と東日本の太平洋側、西日本の日本海側で平年より多くなりましたが、奄美と沖縄地方ではかなり少なくなりました。気温は北日本と東日本で平年よりかなり高くなりました。

### 【12月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は全国平均では例年（注）より3ポイント高い77%でした。ほとんどの地方で例年より高く、特に沖縄と九州南部地方ではそれぞれ11ポイントと8ポイント高くなりました。最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は九州南部、北海道地方で例年に比べてそれぞれ0.5と0.2大きく、東海から四国地方と沖縄地方では0.2から0.4小さくなり、全国平均では例年と同じ2.2でした。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差は北日本で0.2から0.3大きく、東海、北陸地方と中国地方から沖縄地方にかけては例年より0.2から0.5小さくなり、全国平均では例年より0.1小さい2.0でした。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

### 【12月の週間天気予報から】

平成20年の12月は冬型の気圧配置の日が続くことが例年より少なく、高気圧と低気圧が交互に日本付近を通過して行きました。このため関東平野では、いわゆる「冬晴れ」の日は持続せず、秋のように天気は周期的に変わりました。このような時に雨の降る日を的確に予想するには、雨をもたらす低気圧や前線の詳細について高い精度で予測することが求められます。

図1は12月17日21時の地上天気図です。17日未明に紀伊半島沖で発生した小規模な低気圧が発達しながら東北東に進み、17日の夜には関東地方の南の海上に達しました。関東甲信地方およびその周辺について、17日の日降水量の分布を図2に示しま

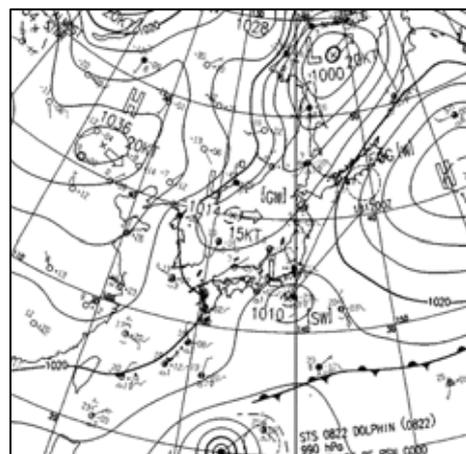
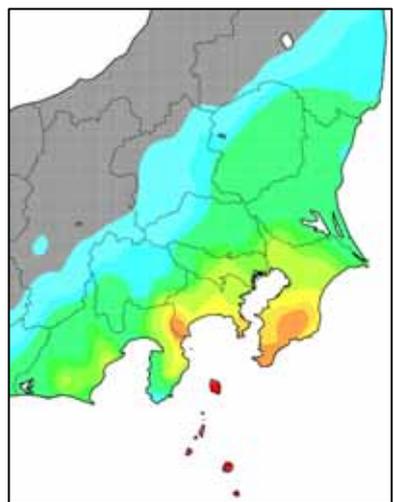


図1 2008年12月17日21時の地上天気図

す。低気圧の通過経路に近い伊豆諸島や南部の沿岸部を中心に、まとまった雨が降りました。

図3は、12月12日発表の週間天気予報に使用した17日の予想気圧配置です。予想図では、日本付近を気圧の谷が通過し、本州の南の海上を中心に雨が降ることを示していました。しかし関東平野は予想される降水域の範囲外で、他の資料でも降水の及ぶ領域はあまり北に広がっていないことから、関東平野では雲は広がるものの雨の可能性は必ずしも高くないと判断し、東京地方は「曇り（降水確率40%）」と発表しました。17日を対象とした他の日の週間天気予報もおおむね同様で、いずれも雨を見逃してしまう結果となりました。

天気が周期的に変わる時には、今回のように気圧の谷の通過するタイミングが的確に予測できていても、天気崩れる範囲が同様に高い精度で予測できなければ、天気予報は外れてしまいます。小規模な低気圧による雨などの場合、それらを週間天気予報で数日前から正確に予測するには非常に高い予測技術が必要で、数値予報モデルの改善などにより今後も着実に精度を高めていかなければなりません。



アメダス 降水量 (mm)  
1 3 5 7 9 11 13 15 17 19 21 23 25 27 29 31  
図2 2008年12月17日のアメダス日降水量

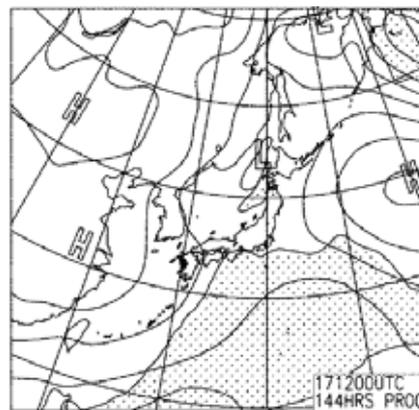


図3 12月12日の予報で使用した17日の予想図  
(水玉模様は降水が予想される範囲を表す)

### 【2月の週間天気予報の利用にあたって】

平均的に見ると1月の末から2月の初め頃にかけて1年のうちで気温が最も低くなります。2月は次第に上昇に転じますが、日々の気温の経過は年や地方によってかなり違います。

図4は2000年と2004年の札幌と福岡の1月中旬から2月下旬にかけての日平均気温の経過を示した図です。2000年は

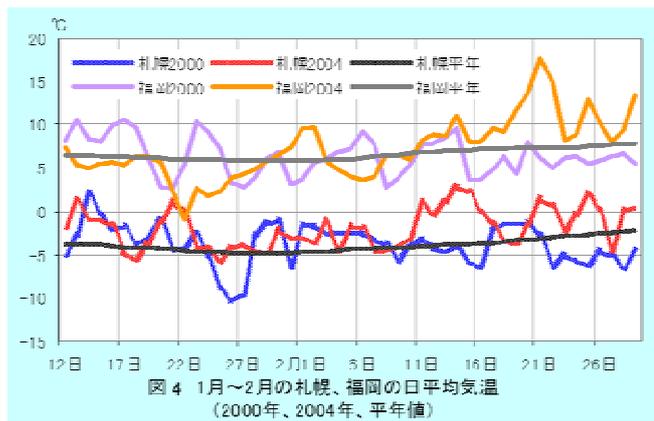


図4 1月～2月の札幌、福岡の日平均気温  
(2000年、2004年、平年値)

2月下旬になっても気温は上がらず、むしろ上旬、中旬より低くなり、平年より低い状態が続きました。一方2004年は、1月下旬に気温が最も低くなった後、2月は急速に上がり、中旬以降は平年の気温を下回った日はほとんどありませんでした。

2月は1月とともに1年で最も気温が低い時期ですが、気温が急速に上がる場合や気温の低い状態が続く場合など年や地方によって様々です。週間天気予報で気温の変化の傾向をつかんで、寒さ対策や健康管理などに活用しましょう。